

アジア映画祭

市民の劇場〈第129回〉

11月8日(金)・16日(土)・21日(木) 岐阜市文化センター



主催＝岐阜市
共催＝国際交流基金
後援＝岐阜県教育委員会
岐阜県国際交流センター
岐阜県日中友好協会(中国映画)

11月 [全自由席] 入場料＝ 通し券¥2,000 1日券¥1,000

8日(金) 催し広場 <中国映画> 「女人故事」 PM5:30～7:05
「最後の貴族」 PM7:10～9:00

16日(土) 小劇場 <インドネシア映画> 「父」 PM4:30～6:08
<台湾映画> 「非情城市」 PM6:15～8:54

21日(木) 小劇場 <韓国映画> 「青春スケッチ」 PM5:00～7:05
<香港映画> 「秦俑」 PM7:10～9:00

<前売り日>平成3年9月10日(火)より *電話受付あり

*前売り・問合せ＝岐阜市文化センター ☎0582)62-6200 岐阜市民会館 ☎0582)62-8111

> 上映作品紹介 <



中国映画 「女人故事」 (女のものがたり)

監督：彭 小蓮

三人の女が都会に毛糸玉を売りに行くために、万里の長城の麓の村を後に北京に向かう。始めて見る都会の風景に三人は興奮する。しかし、彼女らの方言は人々の失笑をかったし、風呂敷を広げての商売を始めてもすぐに追い出された。やむなく三人は、重慶行き汽車に乗り込み北京を離れた。

重慶の街、嘉陵江の河岸に広がる市場に、三人は腰を落ち着け、ここでの商売は順調だった。そんなある日、通り雨に遭って毛糸を濡らしてしまった三人は、編んで売れることを思いつき、編み上がった物を工場へ売りに行くと、皆が競って買ってくれた。数日後、三人は稼いだお金を持って、村へ帰ったが……。



中国映画 「最後の貴族」

監督：謝 晋

1949年、5年に及ぶ内戦の末に蒋介石率いる国民党は、共産党によって中国を追われた。この映画はアメリカへ渡った高級官僚の娘が、動乱の時代の中でたどった悲劇的な運命を描いたものである。

1948年の春、20歳になった李彤は、多勢の人から祝福を受け、ニューヨークの大学に留学することも決まり幸せな日々を送っていた。留学してからも模範生に選ばれるなど順風満帆な毎日であった。

しかし、大晦日の夜のパーティーの最中、両親の悲報を告げる電報が彼女の手裏を一変させた。あまりのショックに気を失う李彤。自らを見失い一時は身を持ちくずしたが、貴族としての誇りだけは捨てることができなかつた。そして、長い漂泊の果てに、彼女は生まれ故郷である懐かしいベニス街の街にたどりついた……。



インドネシア映画 「父」

監督：アグス・エリアス

18年前、スライマンは妻と三人の幼い子供たちを残して失踪した。長男アルマン11歳、次男ダニー7歳、長女アイニは4歳だった。スライマンは仕事でスマトラ島とジャワ島を往復しているうちにある女性と恋に落ちた結果である。たちまち一家は貧乏のどん底に突き落とされた。不幸は重なるもので母親は重病に襲われた。アルマンの肩に一家の柱としての責任のしかかる。

ダニーは幸いかなり大きな会社に就職し、やがてオーナーの娘と結婚する。アイニも立派に成人し結婚相手も見つかり、アルマンも小さいながら自動車修理工場を持つ。一家はいつぱしの生計が立てられるようになった。一方、スライマンは貧乏の上に心臓病に悩まされ、旧友アグスを通し家に近づき、再会をはかる。

これを知ったアルマンは家族を捨て、女に走った父親を許すことができず、断固反対する。しかし、やがてアルマンは父親が看病してもらっただけに家に帰りがっているのではないと気付く。原作は菊池寛の「父帰る」。

台湾映画 「非情城市」

監督：侯 孝賢

1945年8月15日。無条件降伏を告げる天皇の玉音放送が流れたその日、林家の長男・文雄に男の子が誕生した。停電の最中、電灯がついた時生まれた子であり、祖国復帰の喜びを込めて、光明と命名された。林家の主、阿祿は75歳。四人の息子がいるが、次男は日本軍に徴用されて南方から帰らず、三男は上海から生還したものの精神錯乱の状態。幼いころの事故で耳が聞こえぬ四男の文清は、写真館を開いていた。

文清と同居する教師・呉寛栄とその仲間、理想の実現に情熱を燃やし、寛栄の妹・寛美と文清の恋が美しく咲いていく。しかし、祖国復帰の喜びも束の間、大陸からの「外省人」と、台湾の「本省人」との対立が、1947年、「2・28事件」となって台湾を歴史的な悲劇に巻き込んでいく。



韓国映画 「青春スケッチ」

監督：イー・ギュヒョン

主人公チャルスは平凡な大学生。交際相手のミミはバスケットボールの試合で見つけた。チャルスは、ふとしたきっかけで丸めがねの男「宝島」と知り合いになった。若者らしく楽しい日々が続く。一方でミミは将来を考え、医学生と交際を始めていた。それを知ったチャルスは「宝島」と二人でデート現場に現れるが、ミミに冷たくあしらわれる。がっかりして二人はその夜飲みあかすが、帰り道「宝島」は、路上で倒れる。入院先で二人は「宝島」の秘密を知る。彼が脳腫瘍を患っていること、障害児たちの学校の先生をしていることなど。

二人は、海を見たいという「宝島」の願いをかなくてやるために旅に出る。そして、彼は21歳の若さでこの世を去る。時は流れ、学校をやめ、障害者の子供たちの輪の中で歌っているミミのもとに、「宝島」の本が届く。その本を持って、ミミは徴兵に従事しているチャルスを訪れる。大学時代とはどこかが違っている彼を……。



香港映画 「秦俑」 (テラコッタ・ウォリア)

監督：チン・シュウタン

紀元前221年。天下統一を果たした秦の始皇帝は、不老長寿の秘薬を求め、500人の童貞少女を蓬萊の国へ船出させようとしていた。その中の美しい娘「トンアル」がいた。始皇帝に仕えていた勇者「ティエンファン」は、彼女を見初め、二人は深く愛しあうようになるが、宮廷内で見とがめられ火刑に処せられることになった。秘かに手に入れた秘薬を、最後のキスに見せかけてティエンファンに飲ませた。彼女が火の中に消えた後、男は全身に泥を塗られ傭兵の中に生き埋めにされてしまう。

2千年後の1930年代。トンアルは、チュー・リーリーという三流の映画女優に生まれ変わっていた。そんな彼女の前に、植輪の俑から甦った男が姿を現した……。主役は「紅いコーリャン」、「菊豆」の名監督として知られるチャン・イーモウ、及び美人女優のコン・リーが演じる。



11-8(金)・16(土)・21(木)

岐阜市文化センター